



# 日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会

## あいさつ

日本防火技術者協会 理事長  
SFPE 日本支部 支部長 佐藤博臣

新年明けましておめでとうございます。会員各位におかれましては決意を新たにして新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。

2002年5月31日に設立した当会も、2003年9月16日に東京都から特定非営利活動法人として認可を受け、活動の幅と会員数も着実に増加し、SFPE 本部正会員・準会員31名および賛助会員3社を含め会員数80名を超える団体として成長しました。大変喜ばしいことと思います。今年は会員数100名突破を期待しておりますので、周りの方への入会案内活動推進をよろしく願います。

昨年の活動概要と本年度活動の基本方針について述べたいと思います。

2004年1月28日の総会で承認された計画に沿って講演会などを協賛で実施するとともに、見学会や地下鉄探検隊などを行いました。さらに、WGを設置して、防火教育のあり方検討や防火技術者の職能などについて検討しました。特に防火教育に関して、東京理科大学の21世紀COEプログラム「先導的建築火災安全工学研究の推進拠点」の活動と連携を強化し、防火教育WGは理科大教育フォーラムと共同で運営しています。また、職能WGでは皆様の業務範囲と必要とする教育項目についてのアンケート調査も行い、この結果を踏まえて「防火技術者」の役割と責任、生涯教育などについて今後検討したいと考えております。

NPO 法人の英語名称を Japan Association of Fire Protection Engineers(略称 JAFPE)と定め、11月27日にはホームページを開設しました。会員専用のページを活用した熱心な討論や提言などを期待します。

また、SFPE 日本支部設立に大きく貢献された関沢理事が本部の理事として推薦されました。これを機に、同氏にアジア・オセアニア地区の防火技術者の連携強化を推進していただ

く所存しております。

さて昨年は、多数の台風上陸にともなう豪雨災害、中越地震と巨大自然災害が続出した年でした。火災に関しては暮れも迫った時の物販店での放火火災、自動車工場火災など新たな課題が投げかけられました。

我々防火技術者は、設計段階だけの貢献だけではなく、火災リスクに対して素人である一般の設計者や建物利用者に対してより多数の分かりやすい形の情報を発信する、いわゆるリスクコミュニケーションの一層の努力を行うべきであると考えます。また、縦割り行政の盲点が事件拡大の要因を形成していることも懸念されます。

これらの事故を他山の石として、当会として行政とは別の立場で、火災シナリオを明確とした重点的な火災安全設計・維持管理の仕組みやガイドブックの作成などへ展開させたいと考えますので、会員各位の一層のご協力をお願いします。

最後に会員各位および御家族のご健勝とご活躍を祈念して挨拶とします。

## 第1次地下鉄探検隊

### 開催結果概要報告

2004年11月30日、当会主催で「第1次地下鉄探検隊」なる地下鉄駅と地下道の避難について、体験的調査を東京メトロの溜池山王駅(国会議事堂前駅に接続)でおこないました。会員外も含めて21人が参加、数名ずつチームを組み、駅とそれに接続する地下道全体を1時間半歩き、避難上の印象や空間認識などの観点で見回りしました。探検のあと懇談会をおこない、疲れを癒すとともに、避難安全上のさまざまな意見交換を行いました。

この駅は、最も古い銀座線に、深くに設置されている千代田線、最新の南北線、さらにカーブしている丸の内線が接続する3次元的に複雑な地下駅です。空間認識の難しさ、停電時あるいは煙拡散時の避難口の探索の難しさ、群集流動上の問題など、以下にしめすような指摘がありました。

・プラットフォームから避難するには一度下を下りるので、避難認識に適合しない。また、下層部に売店がある。

・ビルとの接続などシャッターが多くそれらが閉鎖すると様子が一変する。もっとも全て閉鎖するだろうか。  
・地上まで100段くらいの避難階段がある。

・乗降客の多いところで避難階段が狭いところあり。

・お客を呼び込むのは盛んだが、逃げることには関心が薄い空間になっている。

・非常口灯が見通す方向と直角になり、見えない。

・エスカレータを設置したため階段は1人幅しかない。(写真)



こんなに階段が狭くなった！

・丸の内線には排煙設備がない。  
・全体がつかめず、誘導灯にそってしか避難できない。

・2段降下シャッターは避難との関係でマニュアルで閉鎖する必要もあるか。



シャッターが閉じると出口が分かるかな？

・係員が非常に少ない感じがする。  
・乗換駅までの距離の表示があったが、距離がわかると避難に便利かと思われる。



なお、イメージマップ作成の課題をもって行いましたが、第一次探検隊ということもあり、又あまりにも複雑な駅であったこともあって、この課題にはかきませんでした。

参加された皆さん、防災避難の観方で地下鉄駅を歩いたことはなかったこともあり、改めて避難上の課題を認識し、有意義な体験という印象をもったようです。今回の結果を参考に、次回はよりテーマを絞った企画をおこないたいと思います。

## 総会開催のご案内

NPO 法人日本防火技術者協会発足後、第2回となる2004年度総会、講演会を下記のごとく開催いたしますのでご案内いたします。なお、SFPE日本支部総会が当総会后に、引き続き開催されます。

## NPO 法人日本防火技術者協会 平成16年度通常総会

日時 平成17年1月24日(月)  
14時~14時30分  
場所 東京理科大学森戸記念館  
議題内容《予定》  
1) 平成16年度活動報告  
2) 平成17年度活動計画報告  
3) 会計報告  
4) 監査報告  
5) 理事、監事の選任  
6) その他



SFPE・J ニュース  
(SFPE 日本支部  
の活動 第11号)

## SFPE 日本支部2004年度通常総会

日時 2005年1月24日(月)  
14時30分~15時  
場所 東京理科大学森戸記念館  
議題内容《予定》  
1) 2004年度活動報告  
2) 2005年度活動計画報告  
3) 理事の選任

- 4) 職能WG活動報告
- 5) その他

## シンポジウムのご案内

「性能設計時代の防火技術者の役割」- 性能基準と火災安全設計法に関する国際会議報告を通じて今後の展望を考える -

主催: NPO法人日本防火技術者協会 (SFPE 日本支部)

- ・東京理科大学 (21世紀COEプログラム「先導的建築火災安全工学研究の推進拠点」)
- ・建築・住宅国際機構

日時: 平成17年1月24日(月)  
(総会同日、同会場)  
15:15 ~ 17:30

場所: 東京理科大学  
森戸記念館 第1フォーラム  
プログラム

- 性能基準と火災安全設計法に関する国際会議 (ルケブル) の報告  
1). 諸外国における性能基準および性能設計の方法論 竹市尚広 (㈱竹中工務店)  
2). 性能設計ツールの概要 松山 賢 (東京理科大学)
- 火災安全に関する国際基準化の状況 西野加奈子 (建築・住宅国際機構)
- 性能設計の技術基盤を考える 原田和典 (京都大学)
- [招待講演]  
性能指向の建築基準: 各国の現況とこれからの展望 平野吉信 (国交省国土技術政策総合研究所)
5. 討論

[参加費]: (主催団体会員) 無料,  
(一般) 3,000 円

[参加申込]: 各所属団体へメールまたはファックスにてお申し込み・お問い合わせ下さい。

定員: 先着108名

申し込み・お問い合わせ先

NPO 法人日本防火技術者協会

なお、当会場にて防火技術者協会に入会手続きを行った方は、参加費無料になります。

## シンポジウムのご案内

AIJ 特別研究委員会シンポジウム

「エレベータを利用した避難の可能性」

参加費: AIJ 会員 1000 円  
会員外 2000 円

日時 2005年2月21日(月)  
13時30分~16時30分

場所 建築会館ホール(先着)

講演者

- 特別委員会の趣旨説明  
矢代嘉郎 (清水建設) 13:30 ~
- 避難WGの報告 志田弘二 (名古屋市立大学) 13:35 ~
- 火熱・煙制御WGの報告  
森山修治 (日建設計) 14:05
- 運行WGの報告  
長谷見雄二 (早稲田大) 14:35 ~
- エレベータを利用した避難計画のケーススタディ 土屋伸一 (明野設備計画研究所) 15:05 ~
- 討論 (司会) 萩原一郎 15:45 ~ 16:30

事務局: エレベータ利用避難特別  
研究委員会 委員長 矢代嘉郎  
yashiro@shimz.co.jp

03-3820-5500

建築学会事務局 安裕和

[an@aij.or.jp](mailto:an@aij.or.jp)

03-3456-2057

## シンポジウムのご案内

「局所火災に対する耐火設計を考える - 魅力ある耐火設計に向けて - 」

開催主旨

建築基準法の耐火性能検証法においては、フラッシュオーバー火災と局所火災の2つが耐火設計用の火災外力(設計火源)として導入され、実務に供されてきた。

そのうち、局所火災については、研究上の知見が不十分なこともあって、建物の実況にかかわらず3MWの燃焼が20分継続する条件を一律に課している。

しかしながら、建物の使われ方、空間形状といった建築設計の文脈に応じて火災規模を想定し、合理的な設計を行うことを将来的には目指すべきである。

火災安全設計小委員会傘下に設置された局所火災に対する耐火設計WGにおいては、局所火災の想定を科学的に行うための方法論と、可燃物実



# 日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会

態調査、燃焼データベース等の技術資料を集積してきた。本シンポジウムは、過去2年間のWG成果を公表し、設計火源の今後のあり方を考える機会として企画した。

当日は、WG成果概要を記した冊子と、可燃物調査事例、実在可燃物の燃焼データベースなどを収録したCD-ROMを配布する。

主催 日本建築学会防火委員会  
火災安全設計小委員会

後援

NPO法人 日本防火技術者協会  
日時 2005年2月24日(木)  
14時00分~17時00分  
会場 建築会館会議室  
(港区芝5-26-20)

プログラムの概要・講師

1. 主題説明：局所火災に対する耐火設計の考え方  
(原田和典、京都大学)
2. 設計の目標と可燃物情報の捉え方  
(八木真爾(株)佐藤総合計画)
3. 調査事例とその類型化  
(大宮喜文、東京理科大学)
4. 実在可燃物の燃焼特性  
(名取晶子、損害保険料率算出機構)
5. 火災・煙性状予測計算法  
(若松高志、(有)日本防災研究所、鈴木圭一、清水建設(株))
6. 設計ケーススタディ  
(野竹宏彰、清水建設(株))  
配布CD-ROMのデモ -  
- 討論 -

定員 70名(申込み先着順)

参加費

建築学会会員	1,000円
登録メンバー *	1,500円
後援団体メンバー	1,800円
会員外	2,000円
学生	1,000円

\*登録メンバー：会員外であって本会「能力開発支援制度」に登録された方。(詳細は日本建築学会ホームページ <http://www.aij.or.jp/CPD/> を参照のこと)

申込方法

催し物名称、参加者氏名、所属、連絡先を明記の上、電子メールまたはファックスにて下記宛先にお申し込み下さい。

申込み・問い合わせ先

社団法人 日本建築学会事務局 研究事業部 安 裕和

FAX 03-3456-2057

E-mail [an@aij.or.jp](mailto:an@aij.or.jp)

## 21世紀COEプログラム 第2回国際シンポジウムの開催

2005年3月7日(月)~9日(水)の3日間、下記の国際シンポジウムが開催されます。各テーマを中心に、諸外国の火災安全工学研究の動きについて、また、アジア地区を中心とした火災安全工学・技術に関する職能について講演します。論文発表も行います。第2日目には、2005年2月竣工予定の火災科学実験棟を初公開いたします。

第1日：2005年3月7日(月)  
9:00~20:00

「国際的の火災安全工学研究拠点として求められる姿とは？」

9:00~9:30

開会挨拶 若松 孝旺(拠点リダー)  
総合研究所火災科学研究部門教授  
理事長挨拶 塚本 恒世  
東京理科大学理事長

学長挨拶 岡村 弘之

東京理科大学学長

9:30~9:45

東京理科大学 21世紀 COE プログラムの紹介

森田 昌宏 (拠点サブリーダー)  
総合研究所火災科学研究部門教授

9:45~10:00

東京理科大学の火災研究・教育  
大宮 喜文 本学理工学部・講師

10:00~ コーヒーブレイク

10:15~11:45

来賓

James G. Quintiere

国際火災安全科学会・第4代会長

神 忠久

日本火災学会・会長

室崎 益輝

日本建築学会防火委員会・委員長

関口 和重

東京消防庁・次長

小川 富由

国交省住宅局建築指導課・課長

小林 恭一

総務省消防庁予防課長

11:45~13:00 昼食

13:00~15:00

講演

田中 哮義 京都大学・教授

Michael Delichatsios アルスター  
大学火災科学センター教授、英国

Robert Jonsson ルンド大学火災  
安全学科・助教授、スウェーデン

James G. Quintiere メリーランド  
大学防火工学科・教授、アメリカ

15:00~ コーヒーブレイク

15:15~17:45

Weicheng Fan 中国科学技術  
大学・教授、中国

Shen-Wen Chien 中央警察大学  
消防研究所・教授、台湾

Myong-O Yoon ソウル市立大学都  
市安全工学研究センター・教授、韓国

Wan Ki Chow 香港理工大学・  
教授、中国

鈴木 弘之 筑波大学・教授

18:00~20:00

Welcome Reception

赤坂プリンスホテル クリスタル  
パレス(東京・紀尾井町)

第2日：2005年3月8日(火)

9:00~14:30

「火災安全工学技術を社会に浸透させるには？」

SFPEメンバーを中心に講演

9:00~11:00 講演

佐藤 博臣

支部長(SFPE 日本支部)

Samuel Dannaway

次期会長(SFPE 本部)

富松 太基

理事(SFPE 日本支部)

Wan Ki Chow

教授(SFPE 香港支部)

11:00~12:00

火災科学センター実験棟

(2005年2月竣工)見学ツアー

12:00~13:00 昼食

13:00~14:30 講演

堀田 博文

理事(SFPE 日本支部)

Brian ByungKug, An

支部長(SFPE 韓国支部)

松山 賢

講師(東京理科大学)

会場：東京理科大学野田キャンパス

薬学部記念ホール(千葉・運河)



# 日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会

(17:30~19:30 SFPE 日本支部  
行事を予定。

会場：東京理科大学神楽坂キャンパス  
森戸記念館(東京・飯田橋))

第3日：2005年3月9日(水)

10:00~19:30

10:00~12:00

論文発表 セッション1

避難、リスク解析、確率統計など

12:00~13:00 昼食

13:00~15:00

論文発表 セッション2

火災モデリング、消火、火災物理、  
区画火災 など

15:00~15:30 コーヒーブレイク

15:30~17:30

論文発表 セッション3

耐火構造 など

17:30~19:30

Closing Banquet

会場：東京理科大学神楽坂キャンパス  
森戸記念館(東京・飯田橋)

詳細は下記ページを参照ください

21世紀COEプログラム第2回国  
際シンポジウムホームページ

<http://www.rs.noda.tus.ac.jp/coe-fire/topics/2ndsymposium/International%20Symposium%20Japanese.html>

お申し込みは所定のフォーム

【Microsoft Word】【pdf】により  
FAX または E-mail にて、下記まで  
お申し込みください。

FAX：04-7123-9763

E-mail：

coe-fire@rs.noda.tus.ac.jp

お問合せ：〒278-8510 千葉県  
野田市山崎2641

東京理科大学21世紀COEプログラ  
ム事務局 平田(研究事務課)

TEL 04-7124-1501 内線 5036

[参加費]

一般 35,000円 早期お申込み割引

(2005年2月7日まで)30,000円

学生 25,000円 早期お申込み割引

(2005年2月7日まで)20,000円

参加費 内訳 講演・論文発表、予  
稿集等資料、昼食、Welcome  
Reception, Refreshments, Closing  
Banquet

その他 15,000円 開催期間中い  
ずれか1日のみ参加

参加費のお支払は下記銀行口座に  
お振込みのうえ、振込領収書を事務  
局へFaxしてください。

銀行名：東京三菱銀行 柏支店

口座名義：学校法人東京理科大学2  
1COEシンポジウム口

口座番号：(店番)275(口座番号)  
2387856

## 理事会等の開催結果

理事会を以下の日に実施しました。

12月8日(水)

1月14日(金)

## 新入会員

新たに入会された5名の方々を  
記載しました。(五十音順、敬称略)

[会員]

秋月有紀〔立命館大学〕

掛川秀史〔清水建設㈱〕

金子弘幸〔鹿島建設㈱〕

鈴木圭一〔清水建設㈱〕

中道明子

〔(財)日本建築総合試験場〕

[合計79名]

[学生会員] [1名]

[賛助会員] [3名]

## 振替口座のご案内

特定非営利活動法人日本防火技術  
者協会の郵便貯金口座と振替口座を  
新宿郵便局に開設しました。

振替口座は、口座名：特定非営利  
活動法人日本防火技術者協会

口座番号：00160-4-759167

です。会費等の納入の指定口座で  
すのでご利用下さい。

## ホームページ開設しました

平成16年度の目標でしたNPO  
法人日本防火技術者協会(JAFPE)  
のホームページを平成16年11月  
27日に開設いたしました。

今後このホームページを介して、  
より積極的に活動を進める予定で  
すので、会員各位のご協力をお願い  
致します。

URLは、<http://www.jafpe.or.jp>

です。

## 編集委員会からのお知らせ

次号は、通常総会の結果等を予定  
しています。